
仮面ライダーディケイドinリリカルなのは ~転生者の破壊者~

天魔王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド in リリカルなのは ～ 転生者の破壊者～

【Nコード】

N6926T

【作者名】

天魔王

【あらすじ】

ごく普通に過ごしていた大学生、天城あまぎ 司つかさ。帰宅途中にビルの崩落から子供を救い、変わりに死んでしまった。しかし次の瞬間目が覚めていたのは白い空間だった。そして女神を名乗る少女から仮面ライダーディケイドの力を貰い、リリカルなのはの世界を乱す転生者討伐を命じられ、転生者の破壊者となった。

注：この物語は、仮面ライダー40周年を記念して前々から書こうと思っていた物語です。転生物なので、他の作品と被る部分も出て

くると思いますが、御勘弁ください。

プロローグ（前書き）

どうも、天魔王です。映画レッツゴー仮面ライダーを見た辺りから仮面ライダー物書きたいなあと思ってました。正直、更新は他の作品を優先するのだから不定期です。下手したら一月二月空く可能性があります。

それでは、どうぞ！

プロローグ

プロローグ

司 side

《アタックライド ブラスト》

とある路地裏に電子音が響き、赤い無数の弾丸が飛翔し対象に当たる。

男「ぐあああ!？」

男はブラストが当たり、その衝撃で転がる。そして戸惑いながら立ち上がり、困惑しながら言う。

男「な、なんでディケイドがいる!？てめえも転生者か!！」

男が見た先にはライドブッカー・ガンモードを構えたマゼンダカラーのバーコードに似た面をした仮面ライダー、ディケイド（激情態）

が立っていた。

司「…ありきたりな台詞どうも…。」

司ことディケイドはライドブッカードからカードを取り出してディケイドライバーに装填する。

《ファイナルアタックライド ディ・ディ・ディ・ディケイド》

ディケイドの前に巨大な10の立体カード状のホログラムが並び、ディケイドはライドブッカード・ガンモードを構え、男に撃つ。カード状のホログラムを通り段々と太くなった砲撃が男に当たる。

男「がああああああ！？そんな…俺は…オリ主の筈だあああ！！」

男はそう言いながら、霧のように消えていった。

司「…これで13人か…。あと何人いるんだか…。」

司はそう呟きながら、背後に現れた灰色のオーロラを通り、路地裏をあとにした。司がこの世界に生を受け7年、現在7歳である司が何故ディケイドになり戦っているのか、それは7年前に遡る。

7年前

司「ここは…どこだ…？俺は確か…死んだ筈じゃ…。」

司は白い空間で目が覚め、周りを見回しながら呟く。

「…？」「そうだよ、あなたは死んだの。」

司「！？ 誰だ！？」

司は背後から聞こえた幼い声に反応し振り向く。そこには金髪碧眼の白いワンピースを着た美少女がいた。

女神「私は女神、ちゃんとした名前はないよ。」

司「女神…神だつて？…テンプレじゃあるまいし、そんな冗談聞いている暇無いんだが…。」

女神「本当なんだけどなあ…。まあいいや、それじゃあ要件を言うね。」

司「おい待て、勝手に話進めるな。」

女神「仕方ないなあ、それじゃああなたの疑問に答えるね。あなたは、帰宅途中にビルの崩落から子供数人を守るために身代わりになって死んだ。」

女神は目を瞑りながら言う。表情は若干ながら哀愁漂っている。

司「…マジか…死んじまったのか…。まだ20年しか生きてなかったんだけどなあ…。…ん？じゃあなんで今俺喋ってんだ？」

女神「それは私がこの空間に魂ごと連れてきたから…。…それと最初に言っておくわ…本当はあなたは重傷だったけど死なない筈だったの…。」

司「…ならなんでここに…ってか、俺現状に慣れすぎだろ。」

司は自分自身にツツコミを入れる。

女神「…理由は、私が死ぬようにしたの。あなたが必要だったから。」

女神はそう言いながら司を見る。

司「…俺が必要？つまり、お前が俺を殺したってことか？てか、お前が女神の証明掲示されてないんだけど。」

女神「…周りを見てみて…。」

すると、急に白い空間が暗くなり、無数の地球が見える。

司「これは…地球か？なんか、ディケイドの一話みたいだな。」

女神「概ね正解、これは無数の平行世界…ディケイドみたいにぶつかり合ったりしてないけどね。」

司「女神も仮面ライダー知ってんのな…。」

女神「それはまあ…面白いし…。コホン、ともかく、この中の一つ、リリカルなのはの世界がある理由で歪み始めてるの。あなたには、

その歪みを直してもらいたいの。」

司「歪み？なんで歪みが出来てる。」

女神「…私はいわゆる最高神なんだけど…他の神や邪神が暇つぶしや娯楽の為にチートな転生者をリリカルなのはの世界に送りこんでいるのが原因…。今は結界を張ってあるからもう増えることはないんだけど…結界を張ったから私は干渉出来ないの。だから、あなたにお願いしたいの。」

女神にそう請われ、司は暫く考える。そして思い当たり言う。

司「いや待てよ。転生者が世界を歪ませる原因なんだろう？流れから察するに俺も干渉する場合、転生するんだろ？それじゃあ意味ねーだろ。」

女神「そこにあなたを選んだ理由があるの。電王の特異点は知ってるわよね？あなたはその世界版、あなたが干渉しても、世界に悪影響は出ない。一万年に一人産まれるか産まれないかの逸材なの。正直、あなたを見つけた時はかなり嬉しかったわ。」

司「…んで、俺はどうすれば？」

女神「あら、元の世界に戻せとか言わないの？」

司「…あんたが女神と仮定して、その一万分の一の確率の特異点を探したってことは、その特異点しか解決出来ないから…あとあんたの様子を見るに、その歪みは他の世界にも影響するんじゃないのか？話した感じ、あんたは見た目は幼女だが理知的で理性的だ。そんなあんたが無理やり俺を死なせてここに連れてきた。それだけ切羽

詰まってるってことだろ？」

女神「…やっぱりあなたを選んで正解だった。その通り、歪みはあなたのいた世界にも影響がいくわ。それで、どうする？嫌なら断つてくれて構わない。でも今のところ、あなたしか特異点は見つかっていないわ。」

司は暫く考え、言う。

司「…わかった、やろう。しかし、俺はリリカルなのは、名前ぐらいしか知らないぞ？」

女神「心配ご無用！はい、DVD。」

手渡されたのは、リリカルなのはの無印からStrikersまでのDVDだった。そして目の前にはテレビとDVDデッキがあった。

司「…これを見ると？」

女神「イエス！」

司「…仕方ないな。」

そして司はリリカルなのはのDVDをぶっ通しで見せられた。そして見終わり、リリカルなのはの世界に行く準備をすることになった。

司「…疲れた…。」

女神「お疲れ様、それじゃああなたにも何か能力とか与えなきゃね。」

何がいい？何でもいいわよ。」

司は暫く考え、そして考えついた能力を言う。

司「俺は仮面ライダーが好きだから、ディケイドライダー、ライドブッカー、マシンディケイダーをくれ。変身状態は激情態にしてくれ、好きなんです。あと、ダブルとオーズにもカメンライド出来るようにしてくれ。ディエンドの召喚機能とサブライダー達のカードも欲しい。あと、各ライダーの最終フォームも直接カメンライドと召喚を出来るようにしてくれ。」

女神「ふむふむ…世界の破壊者ならぬ、転生者の破壊者ってところね。他には？」

司「リリカルなのはの世界以外の能力は効かなくしてくれ。これでほとんどの転生者の能力を封じれる筈だ。」

女神「でもそれだと魔法はどうするの？魔力をバカ高にした転生者もいると思うけど。」

司「それも考えてる。確かネギまあたりに魔力無効化みたいな能力なかったか？それを回復や補助魔法以外、俺に不利になる魔法は無効化みたいに来るか？これで魔法も利かない。」

女神「なかなか考えてるわね。そこまでチートな能力じゃないのにほとんど敵無しになったわね。あとは？」

司「念のため、あんたと連絡取れるようにしてくれ。万が一、転生者が原作キャラを殺した場合に俺じゃ対処出来ない。」

女神「了解、連絡は取れるようにするわ。あとはオリジナルカードを作るようにしてあげる。これで蘇生用のカードでも作って。あ、でも乱用しないでね。」

司「分かった。これぐらいだな。」

女神「デイクイドライバーとかは時期を見て送るわ。サービスで魔力もクロノ並みにはあげる。もしかしたら魔力が必要な場面もあるかもしれないからね。」

司「そいつはどうも。最後に聞いておきたい。」

女神「何？」

司「転生者を全員倒せば元の世界に帰れるんだよね？」

女神「…も、もちろん。」

司「…わかった、それじゃあいつてくる。」

女神「いつてらっしゃい。」

そして司は光に包まれて消えた。

司 side out

女神 side

司が消えたあと、女神は言う。

女神「ああ…どうしよう…。結局、リリカルなのはの世界に行けば元の世界には帰れないって言えなかった…。」

女神はオロオロしながら無数の地球の一つ、リリカルなのはの世界を見て言う。

女神「司…ごめんなさい…。あなたの新しい生に幸がありますように…。」

女神はそつこぼしながら、祈るように手を合わせた。

女神 side out

司 side

司は銀色のオーロラを抜け、自室に帰ってきた。そして変身を解く。そこに声が掛かる。

???「お帰りなさい、司。」

司「ただいま、リニス。」

司はベッドに伏せている猫、リニスに返事をした。そして猫は人型に変わり、ネコミミの生えた女性に変わる。この使い魔、リニスとの出会いは追々。因みに、リニスはある程度の事情は把握している。

リニス「あまり無理しないでくださいね？」

司「はいはい、わかってますよ。」

リニス「本当にわかってるんですか？」

司「リニス、俺は基本的に面倒なことが嫌いなのは知ってるだろう？だから安心しろよ。」

司の言葉にリニスはやや膨れっ面をしながら答える。

リニス「…わかりました。」

リニスは猫に戻り、椅子に座っている司の膝元に乗る。司はリニスを撫でながら、窓から夜空を見上げた。

司「（…転生して7年か…孤児だったから、親がいるのは初めてになるんだよな…。それにしても、転生者にはろくなのがないな…。ほとんどのやつがやれハーレムだオリ主だ、そんなんばつかだな。つか、俺もその一人なんだよな…やだなあ、一緒にされんの。もう少して原作が始まるか…あんま変わってなきやいいが…。」

司はそう思い耽りながら一日を終えた。

司 side out

続く…。

プロローグ（後書き）

仮面ライダーの転生物です。因みに、変身すると身長は大人サイズです。プロフィールは後々書きます。

主人公設定（前書き）

主人公設定です。あとディケイドの設定も載せます。

主人公設定

主人公設定

名前 天城あまぎ 司つかさ

容姿 黒髪長髪 瞳の色は紫 顔は上の中

ごく普通の大学生をしていた青年。（享年20歳）実は孤児で、親を知らない。転生後も苗字は天城、名前も司のままだった。転生して初めて家族、両親を知ったのでその点は女神に感謝している。転生前と差ほど容姿は変わっていない。（瞳の色以外）

仮面ライダーが好きで、女神からもディケイドのアイテム一式を貰った。

本人に自覚は余りない（興味ない）が、容姿が優れているためモテる。ただ、孤児だったために恋愛などよりも、楽しむものや毎日を生きること必死だった。趣味で剣道や空手をしていたため、戦闘能力は高い。

能力 チート能力無効化 魔力無効化

仮面ライダーディケイドの能力

変身した際の形態は激情態。劇場版同様に、カメンライドしなくても他のライダーのアタックライドをそのまま使用できる。また、カメンライドも普通に行え（オリジナルと違い、ダブルとオーズにもカメンライド出来る。）、カメンライド形態でも他のライダーのアタックライドを使用できる。（例えば、クウガにカメンライドしたまま、カブトのアタックライドのクロック・アップ、ファイズにカメンライドしたまま、響鬼のアタックライドの音撃棒・烈火など。）そして、各ライダー（ディケイドを除く）の最終フォームに直接カメンライド出来る。（召喚も行える。）

また、ディエンドと同じようにライダーの召喚が行える。ディエンドと違う点があり、ライオトルーパーは3〜10000人召喚でき（任意で人数を決められる）、召喚したライダー達にもディケイドが使用したアタックライドが反映される（クロック・アップなど、任意で反映される）。基本的にはディケイドの言う通りに動く人形だが、ある程度自意識がある。召喚はやろうと思えば何人でも呼び出せる。ただし、司は基本的には最高5人までしか出さない。

主人公設定（後書き）

以上です。後々設定を追加するかもしれません。

第1話（前書き）

突然ですが、仮面ライダーWリターンズ・仮面ライダーエターナルをレンタルして見ました。アクセルも見てとても面白かったですが、エターナルはまた違った面白さでした。本編ラスボスであったユー・トピアドーパント、加頭が何故NEVERになったのかや、エターナルである大道克己が悪魔になったきっかけなど、映画や本編では不透明だった事実が判明して良かったです。でもまさか、アクセルみたいなサブライダーだけでなく、劇場版ライダーで悪役ライダーのエターナルにもスポットを当てるのには驚きでした。

それと13人目の平成ライダー、仮面ライダーフォーゼは正直デザインが微妙です…。

それでは、本編をどうぞ！

第1話

第1話

女神side

司を送り出した女神は、無数の地球が浮かぶ空間で、一つの地球を眺めていた。そこに、一人の秘書然とした女性が現れる。女神はその女性に目を向ける。

女性「女神様、転生者を送った神々方は仰せの通り、全ての力を永久剥奪し無限地獄へ落としました。」

女神「そう…ありがとう。」

女性「それと、女神様が送られた彼は順調に転生者達を倒しているようです。さすがは女神様が選んだ方ですね。」

女神「ええ、直接聞いたわ。本当に彼には助けられたわ…でも、これからね。」

女性「そろそろ、原作開始頃ですからね。」

二人はそう言い、再び地球を見上げた。

女神 side out

司 side

司は現在9歳、私立聖祥大附属小学校に通っている。そして音楽を聴きながらバス停でバスを待っていた。そこに、手を振り、笑顔で駆け寄ってくる女の子がいた。

なのは「司くん！おはようっ！」

司「…ハア…。」

それを見た司は気だるそうにため息をついた。それを見たなのは司に言う。

なのは「ちよつと司君！幼なじみの顔を見てため息つくってどういうことなの！？」

司「…ほぼ毎日お前のアホ面見飽きてため息ついて悪いか？」

なのは「アホ面！？私そんな顔してないの！」

司「あーはいはい、そうですねー。」

なのは「ちよつと司君！適当に流さないでなの！」

司となのははちようど来たバスに乗り込みながら会話していた。何故、司となのはが幼なじみになっているのか、それは4年前に起因する。

4年前

司は転生し、ディケイドライダー等が女神から送られてきた半年後、自身の家でくつろいでいた。因みに、司の家はそこそ金持ちである。そこに、両親に持たされたケータイ（i P h o n e）に着信が来る。画面を見ると、女神と表示されていた。司はそれにでる。

司「もしもし。」

女神「もしもし司、あなた今何やってるの？」

司「家でくつろいでるが、今すぐ近くの公園に行きなさい！転生者が高町なのはに接触する可能性が高いわ！」…なんでだ？」

女神「その頃の高町なのはは家族のことで傷心気味なのよ。それにつけ込んで近付こうとする転生者がいるはずよ、あなたも行きなさい！」

司「了解…。母さん、ちょっと出掛けてくるよ。」

司は電話を切り、台所にいる母に声を掛ける。

母「あらそう？気をつけて行ってらっしゃい。」

司「行つてきます。」

司は家を出て近くの公園に行く。そしてケータイに地図とマーキングが表示される。（イメージは、仮面ライダー剣のアンデットサーチャー）公園になのはの反応があり、公園の周りに3つの転生者の反応があった。

司「3人か…高町なのはから目を離す訳にはいかないし…召喚する

か。」

司は公園の近くの物陰に隠れ、ディケイドライバーとライドブッカーを取り出す。そしてライドブッカーから5枚カードを取り出した。そしてディケイドライバーに装填する。

《カメンライド オウジャ、ユウキ、パンチホッパー、キックホッパー、レイ》

そして5人の仮面ライダー、龍騎に登場した仮面ライダー王蛇、劇場版電王に登場した仮面ライダー幽汽ハイジャクフォーム、カブトに登場した仮面ライダーパンチホッパーにキックホッパー、劇場版キバに登場した仮面ライダーレイが現れた。（司のディケイドライバーは、変身しなくてもライダー召喚が出来、世界を渡る力もある。）

王蛇「祭りは…どこだ？」

パンチホッパー「次の地獄はここかな、兄貴。」

キックホッパー「どうだろうな、相棒。」

幽汽「…ふんっ…。」

レイ「さて、いきましようか。」

多少自意識があるため、オリジナルに準じた性格のようだ。そして司は5人のライダーに命令する。

司「今からお前らと3の転生者を別の世界に送る。お前達にも俺と

同じで魔法もチート能力も利かない筈だ、行け。」

司がそう言つと、5人のライダーは頷く。5歳児の子供の命令に頷くライダー達、端から見るとかなりシュールな光景である。そして司はディケイドライダーの力を使い、転生者達とライダーの前に銀のカーテンを出現させ、別の世界に送つた。司はケータイで送つた転生者達の様子を観察する。

転生者達は突然現れた銀のカーテンにより、荒野が広がる場所へ送られた。

転生者1「と、突然なんなんだよ!？」

転生者2「ここは何処だ!？」

転生者3「さっきのディケイドに出てきたやつだったよな…。ついかお前ら誰だ?」

転生者1「そう言つてめーこそ誰だ!？」

転生者2「まさか…お前らも転生者か!？」

転生者3「もつてことは、お前もか。」

そんな会話をしていた転生者達の前に再びカーテンが現れ、そこから司が召喚したライダー達が出てきた。それを見た転生者達は驚愕する。

転生者2「な！？な、なんで仮面ライダーが出てくんだよ！？」

転生者1「知るかよ！」

転生者3「ここはリリカルなのはの世界じゃなかったのか！？」

そんな転生者達にライダー達は仕掛ける。それを見た転生者1は自身の能力を使う。

転生者1「はっ！ライダーだろうが関係ないね！天照！！」

転生者1の目の模様が変わり、血涙が左目から流れてライダー達は黒炎に包まれた。それをケータイから見ていた司は思考する。

司「（黒髪のあいつはNARUTOの能力か…。そういえばサスケに容姿がそっくりだな。）」

そして黒炎に包まれたライダーを見た転生者1は高笑いを始める。

転生者1「アハハハッ！！よし、これで…なっ！？」

だが、次の瞬間表情が凍りついた。消えない筈の黒炎が消え、ライダー達は無傷で出てきたからだ。

転生者1「どういうことだ！？消えない筈の黒炎が消えただ！？」

他の転生者も天照のことは知っていたようで動揺していた。そして司はケータイ越しに念話で命令する。（召喚した仮面ライダー達には念話を送れる。）

そしてライダー達は転生者達に突っ込んだ。ホッパー達は転生者1

を、王蛇は転生者2を、幽汽とレイは転生者3に向かっていった。

キックホッパー「セアッ！！」

パンチホッパー「ハアッ！！」

キックホッパーとパンチホッパーはパンチとキックのコンビネーションで攻める。どうやら転生者1はデバイスを持っていないようで、自分の影から草薙の剣を出し応戦している。剣が光っているので、ガード不可の千鳥刀にしているようだが、ホッパー達には効果が出ていない。

そして王蛇もソードベントを携え転生者2に切りかかる。

王蛇「ハハハハッ！！」

転生者2「くっ…コイツッ！！」

転生者2は目の色彩が変わって光っている。ガンダム00のイノベーターの能力者のようだ。デバイスも00クアンタの武装そのままだ。

幽汽はサヴェジガッシャーを携え、レイは肉弾戦で攻める。転生者3は何やら銃剣のような物を出しているが、どうやらデバイスではないみたいだ。（司はStrikersまでしか知らない為、Forceで出てくるデバイダーを知らない。）

そしてしばらく見て司は感じる。

司「（こいつら、力はあっても戦い方が素人だ。しかも力に頼り切り…もういいか。）トドメだ。」

司はライドブッカーからカードを1枚取り出し、ディケイドライバ

ーに装填する。

《アタックライド クロスアタック》

クロスアタックの効果により、ライダー達は必殺技を使用する。
ホッパー達はベルトのホッパーゼクターの脚を押し倒す。

《ライダージャンプ》

そして高く飛び上がり、脚を元に戻す。

《ライダーキック》

《ライダーパンチ》

そして転生者1は避けれずに当たり、ダメージを食らう。

転生者1「ぐあ!？」

そして王蛇はデッキからガードを二枚取り出す。そしてラウザーを取り出し一枚装填する。

《ユナイトベント》

すると、王蛇の3体の契約モンスターが融合し、メタルジェノサイダーになった。そしてもう一枚を装填する。

《ファイナルベント》

王蛇とメタルジェノサイダーは転生者2を挟むように立ち、メタル

ジエノサイダーは自身の胸に噛みつき穴を空ける。穴は強烈な吸引を始めた。そして王蛇は転生者2に向かって走り、飛び上がって回転ドロップキックを放つ。

転生者2「ぐっ！」

転生者2は王蛇の攻撃を食らい宙に浮く。そしてメタルジエノサイダーに吸引され、穴に向かっていく。そしてそのままメタルジエノサイダーに激突した。

転生者2「グアアアッ！！」

そして幽汽とレイも転生者3にトドメを刺そうとする。幽汽はライダーパスをベルトに当てる。

《フルチャージ》

すると、サヴェジガツシャーの刀身にエネルギーが溜まる。そしてレイはホイッスルをレイキバットに吹かせる。

レイキバット「ウェイクアップッ！！」

すると、両腕の鎖が外れ、爪状の武器が両腕に現れる。そしてまずレイが転生者3を爪で切りつける。

転生者3「うあ！？」

レイが離れたあとすかさず幽汽はサヴェジガツシャーを地面に叩きつけ、必殺技を放つ。エネルギーが地面を走りながら転生者3に当たり吹き飛ばす。

転生者3「グハアッ!!」

そして転生者達はそのまま霧のように消えた。そしてライダー達も消える。それを確認した司はケータイをしまい、司は他の転生者が干渉してくる可能性を考え、なのはに近づいて言う。

司「早く帰った方がいいぞ、最近物騒だからな。」

なのは「ほえ?」

ブランコに乗っていたなのはは声を掛けた司を見て素っ頓狂な声を上げる。

なのは「あなただれ?」

司「俺か?俺はただの通りすがりだ。つか、お前泣いてるのな。」

司はなのはの泣き顔を見て言う。なのはは慌てて涙を拭い言う。

なのは「な、ないてないの!きのせいなの!」

司「ふーん…そうかい。」

司は適当に答えながらなのはの隣のブランコに座る。

司「さつきも言ったが早く帰れ。親御さんも心配するぞ。」

司がそう言つと、なのはは目に見えて落ち込む。それを見た司は言う。

司「悩みや愚痴ぐらいなら聞いてやるぞ？時には親しい人より赤の他人のほうが話しやすい場合もある。」

なのはは暫く俯き、ポツポツと語り始めた。両親の夢であつた喫茶店を始めた矢先に父親が事故にあつて入院したこと、一人になる時間が増え、自身はிரらない子ではと思ひだしたこと、そして一番悲しいのは、大變な家族を差し置いて何も出来ない自分と小さい手だと、司に語つた。

なのは「…なんにもできないのはくやしいの…。」

それを聞いた司はなのはに言う。

司「…お前、馬鹿だな。」

なのは「ふえ！？ばか！？」

なのはは予想外のことを言われ動揺する。

司「お前の言つてゐることは論外だ。ガキのくせに望むことがデカすぎる。小さい手？何も出来ない？当たり前だろ、お前はガキなんだから。むしろ、お前ぐらいのガキがいろいろ出来たらキモイわ。」

なのは「キ、キモイ！？」

そんななのはを置いて司はブランコから降りて立ち上がる。そしてなのは前に来て柵の部分に座る。

司「いいか？お前がすべきことは我慢することでも、力を望むこ

とでもない。親兄弟に甘えることだ。それがガキの仕事だからな。」

なのは「でも…それじゃあめいわくを…」

司「だからお前は馬鹿なんだよ。家族になに遠慮してんだお前は？
迷惑なんて、産まれた時からかけてんだよ。今更何を遠慮する必要がある。ま、限度はあるがな。」

なのはは司にそう言われ黙る。司は再び立ち上がり言う。

司「暗くなってきたな、送ってってやる。いくぞ。」

なのは「ふえ？ちよっ、ちよっと待ってなの！！」

なのはもブランコから降りて司の隣に並ぶ。そしてなのはに道を聞きながら翠屋近くまで送った。

なのは「…ありがとうなの、えーと…まだ名前聞いてないの。」

司「俺も聞いてないが？」

なのは「あ、まだ言っ てなかったの！わたしはたかまちなのはなの！
あなたは？」

司「俺は天城司、じゃあな。縁が合ったらまた会おうぜ。」

そして司は自宅に帰っていった。その後、暫く経ち両親と話題にな
っている喫茶店に行った時になのはと再開、それから付き合いが
続き現在に至っている。司に言われた影響か、家族には適度に甘えて
いるようだった。

現在

そんなことを思い出していた司になのはは声をかける。

なのは「どうしたの司君？」

司「いや、別に。」

司はニヤリと笑いながら言う。それを見たなのはは言う。

なのは「あー！またなのはのこと馬鹿にしたの！」

司「ご想像にお任せするよ。」

なのは「もうー！司君ー！」

そうした会話をしながら、司となのははバスに揺られ学校に向かっていった。

続く。
…。

司sideout

第1話（後書き）

今回はなのはとの出逢いでした。ありきたりですけどね。司は精神が結構肉体に引っ張られています。

第2話（前書き）

お久しぶりです、天魔王です！

ようやく更新が再開出来るようになりました。他の作品も徐々に更新予定です。

あと今日見た仮面ライダーフォーゼ、初の高校生ライダーですね。俳優本人の年齢は知りませんが…。

スイッチの数が結構多いみたいですね、この分だと追加ライダーは今回も一人ですかね？ディケイドから必ず一人ですから。

第2話

第2話

司 side

司となのははバスを降り、学校に着いた。そして教室に入る。そこに司達に声が掛かる。

アリサ「司、なのは、おはよう。」

すずか「おはよう、司君、なのはちゃん。」

なのは「うん！おはよう、アリサちゃん、すずかちゃん。」

司「おはようさん。」

声を掛けて来たのはクラスメートのアリサ・バニングスと月村すずかである。

アリサ「司あんた、相変わらずやる気無さそうな顔してるわね。」

司「朝一でいきなり失礼なこと言う奴だな。そういうお前は相変わらず暑苦しいな、アリサ。」

アリサ「あんたの方が失礼でしょうが！花の乙女に暑苦しいって何よ！！」

司「はて？乙女？どこに？」

司はそう言いながらキョロキョロと辺りを見回す。それを見たアリサはプルプルと震えながら言う。

アリサ「あ・ん・た・は！！！！」

すずか「アリサちゃん、抑えて抑えて……。」

なのは「司君もアリサちゃん挑発しちゃダメなの。」

司「断る。」

アリサ「きいー！！」

そんなやり取りをして時間が過ぎ、昼休みになった。そして授業で担任に聞かれたこと屋上で昼食を食べながら話し合っている。

アリサ「将来の夢？」

なのは「うん、先生に聞かれたよね。アリサちゃんとすずかちゃんは、もう決まってるんでしょ？」

アリサ「でも全然漠然とよ？パパとママのお仕事、あたしもやれたらいいなっぺくらいだし。」

すずか「私もだよ、ぼんやりとできたらいいなっぺ思っぺるだけ。機械系とか工学系とか好きだから、そっぺいうのができたら嬉しいなっぺっぺ。」

アリサ「まあ、他にも色々興味津々なことはあるし、別になんにも決まっぺないのとおんなじよっぺっぺ、あんたはいつまで音楽聴いてんのよ！！」

司「あん？」

なのは達が話している間に、司はずっぺとイヤホンをつけ音楽を聴いていた。そしてなのはは司に聞く。

なのは「司君は、将来の夢はないの？」

司「将来の夢？ないな。」

なのは「な、ないの！？」

司は立ち上がっぺ屋上の柵から校庭を見下ろす。そして真剣な表情で言う。

司「俺がこの世界でやることは、もう決まっぺんだよ。そもそも選択肢がないからな。」

すずか「それっぺ、どういうっぺ…」

すずかはいつもと違う雰囲気の司に聞こうとするが、聞く前に司は振り向き言う。

司「なんてな。普通に過ごすさ、平均以上に稼いで結婚してガキ作ってな。」

司がそう言うのと、なのは達は食い付く。

なのは「司君！結婚って誰と！？」

アリサ「そうよ！相手は誰！？」

すずか「教えてくれないかな！」

司「アホか、小3でいるわけねーなだろ。あくまで予定だ、予定。」

司の言葉を聞いたなのは達は胸を撫で下ろす。

なのは「ほっ、良かった…。」

アリサ「（まだ相手はいないわけね…。）」

すずか「（じゃあ私にもチャンスはあるってことだね。）」

なのは達はそれぞれ別の方向を見ながら握り拳を作りながら考えていた。

司はそんなのは達を見ながら空を見上げた。

司「（そろそろか、余計な邪魔が出なければ俺の出番はないんだが

な……。」

司は叶わないことを考えながら、視線をなのは達に戻し、再び音楽を聞き始めた。

司side out

???side

その日の夜、とあるビルの屋上に二人の男の子がいた。容姿がそっくりなため双子のようだ。そして二人は話し始める。

???1「いよいよ原作開始だな、弟よ。」

???2「そうだね兄さん、じゃあ僕はフェイト狙いでいくから。」

??? 1「俺はなのはだな。まあせつかく拾った命なんだ、思うが
ままに生きようぜ。」

??? 2「力もあることだしね。」

そう言った二人の手にはUSBメモリに似た物を握っていた。そしてスイッチを押す。

《サイクロン》

《ジョーカー》

そして屋上に野太い音声が響いた。

??? side out

続く…。

第2話（後書き）

今回はかなり短いです。

あと仮面ライダーは全てではないですが、出していきたいです。
原点ライダーも出したいですね。

第3話（前書き）

最近ヴァンガードにはまってしまった天魔王です。
遊戯王からそうですが、トレーディングカードゲームは金掛かりま
くりです！でも、楽しいです。

第3話

第3話

司 side

将来の夢について話した数日後、原作通りなのはフェレット状態のユーノと出会い病院に連れて行ったようだ。

その時司は一緒にはいなかったのだからのメールで知った。

司は自室でケータイを見ながら

傍らに控えているリニスに言った。

司「…ようやくか。リニス、お前はフェイトに逢いたいのか？」

リニス「…出来れば、逢いたいです…。あの子は素直過ぎますから、あなたの言う転生者に騙されないともし限りませんし。」

リニスは少し苦笑いしながら言う。そんなリニスに司は言う。

司「俺も一応転生者だけど？」

リニス「あなたは転生者を倒す為の転生者ではないですか。それに、あなたがなのはさん達に親しくなったのは仕方がないことですよ、流れる的に。」

そんな会話をしていると、司のケータイに着信が来る。名前を見ると女神と書いてあった。司は渋々出る。

司「もしもし。」

女神「久しぶり、とうとう始まるわね。」

司「そうだな。それで、何か用か？」

司がそう聞き返すと、女神はしばらく黙り口を開く。

女神「…え〜と…実はね、言うておかなければならないことがあつてね？」

司「なんだよ。」

女神「…実は、転生者を全て倒してもあなたは元の世界には帰れないわ…。ごめんなさい!!」

司「…あの時どもったから怪しいと思ったがやっぱりか。」

司はあきれ気味に言う。女神はおずおずと司に聞く。

女神「…怒ってない？」

司「ああ！？怒ってんに決まってるだろ！？」

女神「ひいい！？ごめんなさい！！」

司「言いたいことはあるがもう取り返しはつかないしもういい。他に言い忘れたことは？」

女神「え」と、まずあなたはその世界の正式な仮面ライダーということになっているわ。それと、前に言ったと思うけどあなたは世界の特異点、あなたは世界に干渉しても世界に影響は出ないし、俗に言う原作破壊しても問題ないわ。ていうか、もうその猫ちゃん助けちゃってるでしょ？」

女神に指摘され、司は気付く。

司「待て待て、つまり何か？俺はこの世界じゃ干渉しようによってはそいつの運命を変えられるのか？」

女神「そう言うこと。それじゃあ頑張つてね、あなたの新しい人生に幸がありますように。」

女神はそう言い残し電話を切った。女神の話を聞いた司は頭を抱える。

司「はあ…元の世界には帰れない…か…。そこまで愛着があった訳じゃないが、やっぱりショックだな…。」

リニス「…心中お察しします、司。」

そんなやり取りをしていると、結界が張られ、それに司とリニスは

反応する。そしてケータイにも転生者サーチャーが反応する。

司「考える時間もねーのか…変身！」

司は立ち上がり、ディケイドライバーを腰に付け、カードを装填する。

《カメンライド ディケイド》

そして司は仮面ライダーディケイドに変身した。

司「じゃあ行ってくる、リニス。」

リニス「行つてらっしゃい、司。」

司は目の前に現れた銀色のオーロラを通り抜け転移した。

司 side out

なのは side

なのは夜に頭に響いた声に導かれ、助けたフェレットの所に向かい、結果、魔法少女になってしまった。そしていま、化け物と戦っていた。しかし、まだ戦いになれずやられそうになる。

なのは「きゃ!？」

そこに、割り込んでくる者がいた。

???「ハア!!」

なのは「な、何!？」

ユーノ「誰だ!？」

割り込んできた者は左が黒、右が緑のカラーリングのボディースーツマフラーをたなびかせていた。仮面ライダーダブルである。

ダブルはなのはに振り返り、声を掛けようとする。

ダブル「大丈夫か?お嬢さ《アタックライド ブラスト》ぐあ!？」

しかし、そんなダブルに赤い無数の弾が襲う。ダブルは食らい、吹き飛ばされる。

なのは「今度は何!？」

弾が飛んできた方向を見ると、ディケイドがライドブッカーガンモ
ードを構えて歩いてきていた。

なのはside out

司side

司はダブルに容赦なくブラストを撃ち、なのはに近付いていく。

なのは「あ、あなたは？」

司「俺はディケイド、覚えなくていい。」

ユーノ「あ、あなたは！あの時はありがとうございました！」

なのは「ユーノ君知り合い？」

ユーノ「以前、変な奴らに襲われたんだけど、その時助けてくれたんだ。」

なのは「じゃあ良い人なのかな？あの！」

司「どうでもいいからお前らは自分のやることを済ませろ。」

なのは「は、はい！」

なのはは司にそう言われユーノと共に飛んでいった。
そこにダブルが立ち上がり司に言う。

ダブル「なんでディケイドが…てめえも転生者か！？」

司は応えずにライドブッカーを撃つ。ダブルの方はメモリをチェンジする。

《ルナノトリガー》

そしてルナトリガーで弾を撃ち落とす。それを見た司はライドブッカーを腰に戻す。

司「…ダブルか。ここに来て仮面ライダーが相手か、まあいいか。」

ダブル「せっかくのなのはと近づくチャンスだったのに邪魔しやがって！ぶっ倒してやる！」

ダブルは司に誘導弾を撃つ。それを見た司はカード取り出し装填する。

《アタックライド バリアー》

司の前に盾ができ誘導弾を遮る。そして再びカードを取り出す。

司「ダブルにはダブル…ってな、変身！」

そしてカードを装填する。

《カメンライド ダブル》

司の周りに風が巻き起こり、ディケイドの姿がディケイドダブルになった。（後Dダブルと呼称）
それを見たダブルは驚く。

ダブル「てめえ、ダブルにカメンライド出来るのか！」

司は左手を上げ手をダブルに向けながら言う。

司「さあ、お前の罪を数えろ…なんてな。」

ダブル「ふざけんな！」

ダブルはそう言うのと再び誘導弾を撃ってくる。司は誘導弾をサイクロンの力を使いながら蹴り落とし、ダブルに近付いていく。

司「攻撃が単調過ぎんだよ馬鹿。」

司は近付いたダブルにパンチとキックのコンビネーションを叩き込んでいく。

ダブル「ぐはっ!？」

ダブルはよろけ、後退りする。その隙に司はカードを取り出し装填する。

《フォームライド ダブル ルナノトリガー》

司はルナトリガーにフォームチェンジし、誘導弾をダブルに放つ。誘導弾はよろめいたダブルに全て当たり、ダブルは吹き飛ばされた。そのタイミングで結界が解ける。どうやらなのは達の方は終わったようだった。それに気づいたダブルは舌打ちをし、立ち上がる。

ダブル「チッ!くそ、覚えてろデイクイド!!」

ダブルはそう言い残し、スタッグフォンで呼んで飛んできたハードボイルダーに乗り立ち去った。

司「…なんか弱かったな、なんか馬鹿っぽいしあんま警戒する必要なさそうだな。エクストリームに気を付ければいいか…なれるか知らんが。」

司もDWルナトリガーの姿からデイクイドに戻り、銀色のオーロラを通り抜けその場から立ち去った。

司 side out

続く。
...

第3話（後書き）

初仮面ライダー対決でした。
決着はもうちょっと後です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6926t/>

仮面ライダーディケイドinリリカルなのは ～ 転生者の破壊者～

2011年11月15日10時02分発行